

(様式5)

調査報告書

訪問調査日	2008 年 5 月 15 日
調査実施の時間	開始 10時 40分 ~ 終了 15時 10分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 南の家族 (鹿児島県)
-------------------	--------------------------

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

評価調査員の氏名	氏名 <u>石松 成子</u>
	氏名 <u>浜田 千里</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>久保田 久子</u> ヒアリングを行った職員数 3 名

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 5月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定第4676800156号		
法人名	社会福祉法人「橋友会」		
事業所名	グループホーム 南の家族		
所在地	鹿児島県志布志市志布志町志布志 2丁目 27番 18号 (電話) 0994-72-8485		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯 4-2-6		
訪問調査日	平成20年5月15日	評価確定日	2008/6/6

【情報提供票より】 (20年 5月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 11日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤12人, 非常勤 3人, 常勤換算13.83人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	4階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有 (円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

(4) 利用者の概要 (5月1日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	6	要介護2	4		
要介護3	7	要介護4			
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 85.1歳	最低	75歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤後クリニック ・ 藤後病院 ・ 春日歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

病院や福祉施設・介護サービス事業所などを有する法人のケアハウスと併設されたグループホームである。法人内での連携が図られ、入居者や家族にとっても、安心材料となっている。研修や健康管理など充実しており、穏やかな雰囲気、職員は優しく理念に添ったケアを実践している。季節感あふれる地域で採れた新鮮な魚や野菜を食材として調理し、楽しく食事している。住みなれた地域の中で、心の交い合う、温もりのある家族的雰囲気にみちたホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	鍵を掛けないケアについて改善し、安全面や対応に配慮し、自由な暮らしを支えている。他の改善課題についても積極的に改善に努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	自己評価について、全職員でねらいや意義を話し合い、評価をサービスの改善や質の向上に活かす取り組みをしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	入居者の状況やサービスの内容等報告し、鍵を掛けないケアの実施状況について意見交換を行ない、入居者の徘徊の状況把握や地域住民の協力が重要であるということから、見守りや対応を工夫しサービスに活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	説明文書に苦情・相談窓口を明記し、入居時に説明している。面会時や家族会・運営推進会議で家族からの意見や不満等聴く機会を設け、それを運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	地域で実施されるゴミ拾いや草刈りなどに参加している。中学生の体験学習の受け入れや、花火大会・ホームの敬老会に声かけし交流を図っている。災害時の住民協力や住民の避難場所として相互の協力関係を築いている。

2. 評価結果（詳細）

主任調査員 石松成子 / 調査員 浜田千里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自己評価後にこれまでの理念を見直し、「住みなれた地域の中で、心の交い合う温もりのある家族を築きましょう」という、事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング時に理念を唱和し、共有している。理念を意識して毎日のケアを実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で実施されるゴミ拾いや草刈などに参加している。中学生の体験学習の受け入れや花火大会・ホームの敬老会等に近所の人に来てもらい交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティング時に、評価のねらいや意義を話し合い、全職員で取り組み、評価をサービスの質の向上に活かす取り組みをしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	幅広いメンバーに参加を呼びかけ、入居者の状況やサービスの内容等報告し、多くの意見を引き出し、そこでの意見をサービスの質向上に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者に運営やサービスの課題について日頃から相談しており、ともにサービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム内に行事や日頃の様子を掲示し面会時にみてもらったり、ホーム便りを2ヶ月毎に発行し、個別に担当者からのコメントも書いて報告している。健康状態などは面会時や電話等で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	説明文書に苦情・相談窓口を明記している。面会時や家族会・運営推進会議などで意見や不満を聞く機会を設けて、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔なじみの職員によるケアの重要性を認識し、離職や異動を最小限に抑え、新しい職員は、対応の仕方を工夫し利用者への影響に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は多くの職員が受講できるよう勧めている。研修報告を毎月の会議で報告し、研修内容を全職員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡協議会に加入し、研修会などで管理者同士の交流があり、他のホームの見学や研修での事例検討等、活動を通じてお互いにサービスの向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に見学を勧めたり、自宅や施設、病院など職員が訪問したりして馴染みの関係を作り、安心して入居してもらえるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	季節の食材を利用した料理やおやつ・野菜作りなど教えてもらうことがある。感謝の言葉を伝えるなど、心の交い合う温もりのある家族として支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、入居者の特徴や力を考慮し、本人の意思を尊重した選択の機会を作るなど思いや意向の把握に取り組んでいる。困難な場合は家族と相談したり、表情や態度から把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントや職員の意見を基にカンファレンスを行い、担当者会議に本人・家族にも参加してもらい、主治医の意見を参考にチームで計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の期間に応じて評価を実施し、計画を見直している。状態変化や家族の要望があれば、関係者と話し合い臨機応変に見直ししている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、健康管理、病院受診の介助を支援している。墓参りや自宅訪問など特別な外出支援を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。月1回の訪問診療やリハビリなど適切な医療受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期についての対応方針を作成し、説明している。状況に応じて家族や主治医・職員で話し合い最大のケアを支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング時に、利用者の誇りやプライバシーの確保について話し合い、さりげない言葉かけや対応に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事など一人ひとりのペースを尊重し、一人ひとりを見守りながらその人らしい生活を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を大切に献立を決め、調理や盛り付け・後片付けなど手伝ってもらい、会話をしながら一緒に食事をしている。鍋パーティや外食の機会もあり楽しみにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望する曜日や時間に、入浴できるよう支援している。入浴拒否の方も言葉かけやタイミングを工夫し、楽しく入浴してもらっている。温泉に行くこともあり喜ばれている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味などに合わせ、生け花や草取り・調理・洗濯物たたみなど役割を持ってもらっている。誕生会や季節の行事を計画的に実行し、気晴らしを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や入居者の状況に応じて、散歩や買い物・ドライブに出かけている。玄関前のベンチでくつろいだり、庭の芝生で外気浴をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵を掛けないケアを理解し、日中は見守りを心掛け、さりげなく一緒に散歩するなど、自由な暮らしをささえるケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と地域住民の協力を得て、年2回避難訓練を行っている。水やレトルト食品など災害に備え、非常用食糧等も準備している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の指導で栄養バランスに配慮しており、水分や食事摂取量をチェックし記録している。咀嚼の状況に合わせ、刻みやミキサー食にするなど一人ひとりに応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは天窓があり光がさしこみ明るい。入居者に合わせ居室にスロープを設置し、車椅子や歩行器で自由に移動できる。玄関やホールに季節の花や飾りがあり、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた、タンスや椅子、テレビなど持ち込み、家族の写真や好きな物を飾り、安心して暮らせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。